

平成23年度 米子東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

校長は、「21世紀を担うリーダーの育成」を学校ビジョンに掲げ、教育目標実現にリーダーシップを発揮し、教職員は授業研究や研修・研究活動に積極的に取り組み、組織としての「米東の教育」充実への意識は高い。教育目標達成に向けた事業や活動は、その成果と課題を検証し改善を図っている。本年度より「習熟度別クラス編成」の導入、生命科学コースの「オリエンテーション合宿」、生命科学に関する体験的な「探究的学習」、県内・近県高校の希望生徒も対象にした「科学を創造する人財育成事業」（以下「人財育成事業」という。）など特色ある取り組みを推進している。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教師の指導力の向上と授業改善に計画的、組織的に取り組み、習熟度別クラス編成や習熟度別授業による指導の個別化を図り、また、放課後や長期休業中の講習、1学年学習会の開催など学力向上に力を注いでいる。定時制は生徒の多様な学習歴をふまえ習熟度別クラス編成や少人数指導を実施している。
- ② 全日制課程の総合的な学習の時間は、社会人講師の活用も図り自己の在り方生き方の探求活動を実施するとともに、生命科学コースでは言語技術教育も位置づけた創意あるカリキュラムを編成し指導している。
- ③ 学校図書館を全校的機関として分掌組織に図書部を位置づけ、学年・教科・分掌と連携し、生徒及び教職員に適切な図書館資料を提供できる体制をとっている。
- ④ 全日制・定時制課程とも、ホームルーム活動は各内容項目を指導計画に適切に位置づけ、担任は生徒理解に基づく望ましい学級集団づくりに努めている。
- ⑤ 全日制課程においては、進路指導は教職員の協力的な指導体制で、現役合格者増加をめざした学力向上の取り組みと適切な進路指導により、進路状況は数値目標を達成している。生徒・保護者とも大多数が担任の進路指導は適切であると捉えている。
- ⑥ 全日制・定時制課程とも教職員の共通理解のもと規範意識や社会性の育成、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続しており、問題行動はほとんどなく、遅刻・欠席も減少している。
- ⑦ 全日制・定時制課程とも特別支援教育の体制は整備されている。「特別な支援を必要とする生徒」の支援計画は作成され、「気になる生徒」についても特別な支援の対象として取り組んでいる。
- ⑧ 全日制課程での生徒・保護者「学校満足度アンケート」の実施は学校運営評価の有効な取り組みである。
- ⑨ 学校関係者評価委員会は客観的な学校評価、建設的な指摘・提言を行い、習熟度別クラス編成の導入や人財育成事業の充実として具現化している。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校経営に学校図書館活用教育が位置づけられている。今後学校図書館の学習情報センター・教材センターの機能の整備を図り、また学校図書館経営計画を作成することが必要である。
- ② 定時制課程では社会情勢の影響もあり、厳しい進路状況にある。キャリア教育として総合的な学習の時間で職業的（進路）発達課題を内容とするカリキュラムの編成を検討するなど、新たな改善の取り組みが求められる。また、全日制・定時制課程とも進路指導の全体計画の作成が必要である。
- ③ 生徒指導における生徒指導主事の責務が生活指導に特化されており、分掌組織の再編とともに、生徒指導全体計画の作成が必要である。
- ④ 学校評価については、全日制課程の教科別の生徒授業評価の実施を期待する。
- ⑤ 全日制課程における学校安全計画の整備、全日制課程と定時制課程で危機管理マニュアルの内容を統一することが求められる。